

大会テーマ

AI時代にあって 人のありようを根源からみつめる —これからのソーシャルワークを見据えて—

主旨：急速に進展する生成AIは、社会の制度や支援のあり方に大きな影響を与えつつある。AIに未来を委ねる風潮が高まる一方で、ソーシャルワークの基盤をなす人間としての経験・関係性・想像力がどう変わっていくのか、予測が立たない。AIは膨大なデータの処理を可能とするが、意味を理解し、時間と空間の中に自他を位置づけ、他者とともに物語を創り出すという人間固有の営みがいったいどこまで可能となるのだろうか。

生命誌研究が示すように、人間は40億年の生命の連続性の中にある「生き物」であり、多様性、弱さ、矛盾を内包しながら生きてきた存在である。効率や標準化、能力評価では測れない価値を抱え、わからなさに耐え、他者と共感し、関係を築く力こそが人間の本質である。

本大会は、AI時代における「生き物」としての人間観を出発点とし、ソーシャルワークの在り方を再考する。AIの活用可能性を認めつつも、人間の弱さ、多様性、関係性、想像力という生命的価値を中心に据えた支援のあり方を再定義する方向を見出すことを目的とする。



日程：2026年9月5日 **土**

9月6日 **日**

[1日目] 12:00 受付開始
13:00 開会式
13:15~14:45 基調講演
15:00~17:00 シンポジウム
シンポジウム終了後 情報交換会

[2日目] 8:45 受付開始
9:15~11:15 自由研究発表
11:30~12:30 総会
13:30~15:30 事例部会
15:30 閉会挨拶



開催方法：ハイブリッド方式（対面+ZOOMライブオンライン）

対面会場：同志社大学今出川キャンパス良心館2階

〒602-8580 上京区今出川通烏丸東入「今出川駅」下車徒歩1分

参加費：会員 5000円 非会員 6000円 学生 1000円

情報交換会 5500円（アマーク・ド・パラディ寒梅館）

申込み：以下URLより 受付開始5月18日 受付終了8月25日

<https://forms.gle/f4jRAv2BYGf6jzja7>



プログラム：

9/5(土)

基調講演 『「私たち生きものの中の私』として生きる —生命誌からの提案—』

講演者 中村桂子 JT生命誌研究館名誉館長 理学博士

座長 橋高通泰 兵庫医科大学名誉教授

シンポジウム 「AIとともに生きる時代の支援のゆくえ—何が翻訳され、何が失われるのか」

シンポジスト 川原繁人 慶応義塾大学言語文化研究所教授 言語学者
伊藤秀隆 愛媛県立中央病院 医療情報部 係長
野田智子 JA愛知厚生連 江南厚生病院 地域連携部患者支援室長
兼広報・渉外特任病院長補佐

座長 野村裕美 同志社大学教授

9/6(日)

自由研究発表

座長 竹中麻由美 川崎医療福祉大学
菱ヶ江恵子 山口県立大学
伊藤隆博 神戸学院大学

事例部会

事例提供者 葛田衣重 千葉大学医学部附属病院感染制御部
座長 宮崎清恵 神戸学院大学名誉教授



QRコードから
申し込みできます

基調講演者 プロフィール

中村桂子（なかむら けいこ）：JT生命誌研究館名誉館長

1936年東京生れ。生命誌研究者。東京大学理学部化学科卒。同大学院生物化学博士課程修了。理学博士。三菱化成生命科学研究所人間・自然研究部長、早稲田大学人間科学部教授、東京大学客員教授、大阪大学連携大学院教授を歴任。「人間は生きものであり、自然の一部」という事実を基本に生命論的世界観を持つ知として「生命誌」を構想。1993年「JT生命誌研究館」を創設し副館長、2002年館長、2020年名誉館長。著書に『自己創出する生命』（哲学書房）、『生命誌とは何か』（講談社学術文庫）、『科学者が人間であること』（岩波新書）、『科学はこのままでいいのかな』（ちくまQブックス）、『人類はどこで間違えたのか』（中公新書ラクレ）、『中村桂子コレクション8巻』（藤原書店）他多数がある。

シンポジスト プロフィール

川原繫人（かわはら しげと）：慶應義塾大学言語文化研究所教授

1980年、東京都生まれ。2002年、国際基督教大学卒業。2007年、マサチューセッツ大学大学院にて博士号（言語学）取得。ジョージア大学助教授、ラトガーズ大学助教授を経て現職。著書に『フリースタイル言語学』（大和書房）、『音声学者、娘とことばの不思議に飛び込む』（朝日出版社）、『なぜ、おかしな名前はパピペポが多いのか？言語学者、小学生の質問に本気で答える』（ディスカヴァー・トゥエンティワン）、『言語学者、生成AIを危ぶむ子どもにとって毒か薬か』（朝日新聞出版）、『友だち以上恋人未満の人工知能』（KADOKAWA）など。

伊藤秀隆（いとう ひでたか）：愛媛県立中央病院 医療情報部 係長

1977年愛媛県生まれ。県内総合病院勤務を経て、2003年に愛媛県立病院へ看護師として入職。手術室やICUでの臨床経験を積んだ後、2010年より医療情報部へ配属。医療情報システムの維持管理・更新業務を担当しているほか、サーバー構築からプログラミングまで行うフルスタックエンジニアとして活動し、グループウェア・医療安全管理システム・研修管理システム等、院内業務システムの開発を数多く手掛ける。2025年、現場主導によるAI診療録自動要約システム「Laplace（ラプラス）」を開発。看護師としての視点とIT技術を融合させ、医療DXを現場から推進している。

野田智子（のだ ともこ）：JA愛知厚生連 江南厚生病院 地域連携部患者支援室長兼広報・渉外特任病院長補佐

1989年、日本福祉大学卒業。2026年4月現在、公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会副会長。江南厚生病院地域連携部は5つの部門があり、総勢75名が所属。ソーシャルワーカー、看護師、理学療法士、事務などの多職種協働の部門を管理。医療DXについては、2026年より導入され、診療部、診療協働部、地域連携部で患者との対話を、AI機能を活用した電子カルテ記録のための開発に現場で関与している。

学会紹介

一般社団法人日本保健医療社会福祉学会

本学会は、保健医療分野のソーシャルワーカーと研究者が協働してこの分野における社会福祉学を確立し、その実践・研究の発展に寄与することを目的とした学会です。1991年に発足した日本医療社会福祉学会を前身とし、2019年に、さらなる発展を目指して法人化し、名称も変更しました。

目的を達成するために、日本保健医療社会福祉学会大会をはじめとする学術集会やセミナー等の開催、学会誌の刊行、保健医療分野におけるソーシャルワークの実践的研究の推進のための事業、社会福祉学の研究及び教育の推進のための事業、生涯教育体制及び資格の検討及び推進のための事業、関連学術団体との連携及び協力等を行ってきました。

現在会員数は約300名で、社会福祉・ソーシャルワークの研究者、教育者とソーシャルワークの実践者が協力しながら学会活動を進めており、日本学術会議協力学術研究団体としても認められています。また救急認定ソーシャルワーカー認定機構の構成団体としての役割を担っています。

救急認定ソーシャルワーカー認定機構

速報!! 今年度のアドバンス研修は

「救急」「アディクション」「ヤングケアラー」がテーマ!!

♥第10回 アドバンス研修（対面 定員30名）

2026年9月6日（日）16時30分～19時（第36回大会終了後同会場）

家族造形法ワークショップ:

救急医療現場でソーシャルワーカーが直面する
場面を用いて当事者や家族の声を聴く

講師:早樫一男(児童家庭支援センター 山城こども家庭センターだいわ
アドバイザー:家族心理臨床家・臨床心理士)

事例提供:瀬口理恵(国立病院機構名古屋医療センター)

進行:浅野正友輝(トヨタ記念病院)

♥第11回 アドバンス研修（オンライン）

日程検討中

救急医療現場に潜在する子どもの声を聴く

講師:稗田里香(東京通信大学)

山下弥生(介護福祉士・ASK認定依存症予防教育アドバイザー)

事例報告:瀬口理恵(国立病院機構名古屋医療センター)

進行:浅野正友輝(トヨタ記念病院)・野村裕美(同志社大学)